

付表 20 運賃率に関する検討資料

1. 運輸省資料によるトンキロ当りの運賃指数 (昭9~11=1)
 の推移は次のとおりである。

年次	トラック		通 運	鉄 道
	車 扱	小口扱		
30	150	1143	154.5	192.5
31	"	"	"	"
32	165	"	"	220.3
33	"	"	"	"
34	"	"	173.2	218.6
35	"	"	"	220.3
36	"	"	182.2	253.2
37	"	"	"	"

参考 運賃の定めのない沿海輸送

運賃の動きは次のとおりである。(海事統計)

年次	木 材		鋼 材		左の単純平均 の 指 数
	空 蘭	東 京	八 幡	阪 神	
30		390		600	100
31		410		"	110
32		403		"	101
33		310		670	77
34		270		640	92
35		310		630	95
36	(300)	—		620	— (95)
37	()	—		1,020	— (100)

2. 同じく運輸省資料による輸送トンキロは次のとおりである。

(a) 実 数

	トラック	鉄 道	内水面	計
30	75	432	324	831
31	70	477	368	915
32	111	482	410	1,003
33	139	460	392	991
34	168	505	513	1,186
35	208	545	615	1,368
36	—	—	—	—
37	—	—	—	—

(b) 構成比

	トラック	鉄 道	内水面	計
30	9	52	39	100
31	10	51	39	"
32	11	48	41	"
33	14	46	40	"
34	14	43	43	"
35	15	40	45	"
36	—	—	—	—
37	—	—	—	—

3. /および2から総合運賃指数を計算し、白銀の卸売物価指数と比較すると次のとおりである:

	A 総合運賃指数 (30=100)	白銀卸売物価指数		$\frac{A}{B} \times 100$
		30=100	原計数	
30	100	100	343	100
31	104	104	358	100
32	107	108	369	99
33	106	100	344	106
34	102	101	348	101
35	103	103	352	100
36	110	104	356	106
37	112	102	350	110

付表2/ マージン率についての検討資料

1. 商業統計季報による販売額と、機械統計年報の工場出荷額の比率を調べると次のとおりである。

30年 (100万円)

	出 荷 A	販 売 B	$\frac{B}{A}$
金属品 (金属材料)	353.962	662.620	1.87
機械器具	128.657	289.310	2.25
電気機械器具	131.146	220.350	1.68
自動車	62.052	168.300	2.63
建築材料	22.420 462.371	273.150	0.56
家具什器	13.975	118.660	8.49

33年

金属品 (金属材料)	529.834	1,224.836	2.31
機械器具	288.876	716.348	2.48
電気機械器具	373.757	484.979	1.30
自動車	158.333	427.493	2.70
建築材料	140.267 558.796	395.432	0.57
家具什器	28.963	270.461	9.33

35年

	出 荷	販 売	$\frac{B}{A}$
金属品 (金属材料)	1,428,214	1,980,679	1.39
機械器具	502,831	1,479,463	2.94
電気機器	736,916	1,148,387	1.56
自動車	311,969	874,077	2.80
建築材料	167,884 836,704	695,547	0.69
家具什器	56,642	301,703	5.32

36年

金属品 (金属材料)	1,423,438	2,742,455	1.93
機械器具	671,004	1,872,797	2.79
電気機器	1,062,246	1,445,303	1.36
自動車	504,614	1,293,764	2.56
建築材料	284,795 1,011,023	1,099,359	0.88
家具什器	77,549	278,930	3.51

37年

金属品 (金属材料)	1,252,034	2,558,196	2.04
機械器具	717,116	2,130,297	2.97
電気機器	1,153,540	1,471,379	1.28
自動車	592,279	1,556,968	2.63
建築材料	234,800 1,066,408	1,323,577	1.02
家具什器	78,800	254,457	3.3

(注) 出荷の金属材料は鉄鋼のみ
自動車は部品を除く
建材は木材(製材)、および建材(陶磁器を除く)
家具什器は金属製家具、木製品
機械は卸至由のもののみ

2. 有価証券報告書から計算した、商社の国内取引に関するマージン率は次のとおりである。

年 度	機 械	金 属	物 資
33	4.2	2.4	5.9
36	2.9	1.6	2.7
37	2.8	0.4	2.7

この表からみると、いずれの品目も国内のマージン率は低下している。

実際30年の産業連関表作成の際用いられた品目別マージン率と35年のそれとを比較してみると、30年の方が35年よりも大きい品目がかなり見受けられる。(機械類が殆んどで建築材料は変わらない。)

3 商業統計表季報の販売額と工場出荷額比の動きをみると、次のようになっている。

年	金 属	機械(一般)	電気機器	自動車	建築材料	家具什器
30	1.87	2.25	1.68	2.63	0.56	2.49
33	2.31	2.48	1.30	2.70	0.67	2.33
35	1.39	2.94	1.56	2.80	0.69	2.32
36	1.93	2.79	1.36	2.56	0.88	2.51
37	2.04	2.97	1.28	2.63	1.02	2.30

金属、建築材料、家具什器については、商業統計表で扱われている対象品目と、機械統計年報の出荷額の対象品目との間に年々かなり変動があると思われるので、比率も動いている。しかし、おおむね対象品目が一致する機械類については、その変動巾が小さく、とくに対象が一致している自動車ではさきわめ？変動巾が小さく差益率は殆んど一定といえよう。

4 法人企業統計の卸売業付加価値率（付加価値÷売上高）は次のとおりである。

30年	3.8%	この比率（1回転）は、機械とか建築材料を含めた全品目のものであるので、品目グループ毎の比率の動きの判断材料にはならない。が全体としてはおおむね安定している。
33	3.7	
35年度	4.0	
36	4.3	
37	4.5	

5 以上の点を考慮して、マージン率は多少の変動があると考えられるが、計算に当っては35年のマージン率をそのまま利用する。従って、別表々商業部門オノ次中司報告の比率を適用することとした。

付表 22 御売業者在庫変動率

	30 年		33 年		36 年		37 年	
	対販売額	対仕入額	対販売額	対仕入額	対販売額	対仕入額	対販売額	対仕入額
せんい品	0.005	0.005	△ 0.006	△ 0.006	0.016	0.017	0.003	0.003
化学製品	0.008	0.009	0.002	0.002	0.005	0.006	0.083	0.093
金属材料	0.010	0.011	0.003	0.003	0.008	0.009	0.004	0.004
機械器具	0.004	0.004	0.008	0.009	0.007	0.008	0.006	0.007
電気機器	0.028	0.031	0.032	0.035	0.007	0.008	△ 0.010	△ 0.011
自動車部品	0.004	0.004	△ 0.005	△ 0.006	0.018	0.020	0.008	0.009
建築材料	—	—	0.006	0.007	0.001	0.001	△ 0.001	△ 0.001
家具什器	0.01	0.012	△ 0.018	△ 0.021	0.007	0.008	0.035	0.041
紙同製品	0.014	0.015	0.011	0.012	0.004	0.004	0.004	0.004
その他(30,33年は金物)	0.025	0.027	0.062	0.068	0.013	0.014	0.004	0.004

対仕入額は次のようにして計算した。

$$\text{対仕入額変動率} = \text{対販売額変動率} \times (1 + \text{マージン率})$$

各品目別のマージン率は、別表4を利用した。

せんい品	6.1%	電気機器	9.3%	紙同製品	8.2%
化学製品	12.0	自動車	10.5	その他	10.0
金属材料	2.3	建築材料	9.1		
機械	11.0	家具	12.6		

付表 23 需要先別配分比率

品目名	30		33		35		36		37	
	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)
原動機イラ一	64	10	68	11	68	12	57	7	62	11
事務用機械	100	—	96	—	95	—	90	—	90	—
冷蔵庫 洗剤機械	34	—	34	—	32	—	20	—	13	—
機械用部品	30	15	27	15	25	12	25	15	25	15
送函電磁器	74	13	74	13	74	13	74	13	60	10
電動機	50	3	51	3	51	3	51	3	51	3
その他の産業用電機	70	15	70	12	53	20	66	12	66	12
民生用電機	34	—	33	—	33	—	33	—	33	—
電子管応用装置	44	—	48	—	48	—	48	—	45	—
電気計測器	46	18	46	18	46	18	46	18	50	18
楽器	50	—	50	—	50	—	50	—	50	—
自動車	97	—	98	—	97	—	96	—	95	—
自動二輪車	81	—	73	—	73	—	65	—	64	—
自転車リヤカー	42	—	32	—	31	—	31	—	31	—
度量衡器	58	—	35	6	35	6	35	6	35	6
カメラ	22	—	30	—	30	—	30	—	30	—
その他の光学機器	100	—	100	—	85	—	85	—	85	—
金属製家具	100	—	100	—	92	—	92	—	92	—
建設用金属(機械)	100	—	100	—	100	—	100	—	100	—
その他金属(機械)	100	—	100	—	100	—	100	—	100	—

品目名	30		33		35		36		37	
	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(A)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)
農業機械	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
鉱山土木機械	100	-	100	-	85	-	85	-	85	-
せんい機械	96	-	96	-	95	-	95	-	95	-
ミシン	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
三輪車	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
理化学機器	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
医療機械	97	-	96	-	96	-	96	-	96	-
鋼船	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
木船	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
鉄道車両	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
産業車両	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
航宙機	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
その他輸送機	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
工作機械	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
金属加工機械	70	-	93	-	89	-	70	-	70	-
電気通信機	70	10	72	8	72	8	93	7	93	7
化学機械	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
特殊産業機械	28	5	29	5	29	6	26	8	26	8
その他の機械	4	76	4	76	4	76	4	76	4	76
一般産業機械	80	11	73	18	72	18	72	18	72	18
発電機器	28	4	73	4	72	5	72	5	72	5

品目名	30		33		35		36		37	
	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)
製糖じゅうたん	42	—	42	—	42	—	40	—	40	—
その他の木製品	4	60	4	60	3	60	3	60	3	60
伐木	—	5	—	7	—	7	—	7	—	7
木の加工品	—	10	—	15	—	15	—	15	—	15
木製品	—	18	—	15	—	15	—	15	—	15
製材	—	60	—	67	—	67	—	67	—	67
合板	—	50	—	46	—	46	—	46	—	46
砂利・石	—	90	—	87	—	87	—	87	—	87
和紙	—	2	—	2	—	2	—	2	—	2
加工紙	—	4	—	4	—	3	—	3	—	3
塗料	—	20	—	18	—	18	—	18	—	18
耐火レンガ	—	25	—	22	—	22	—	22	—	22
その他の建設用土石	—	90	—	90	—	90	—	90	—	90
板ガラス	—	30	—	31	—	31	—	31	—	31
陶磁器	—	60	—	56	—	56	—	56	—	56
セメント	—	83	—	76	—	76	—	72	—	72
セメント製品	—	72	—	92	—	92	—	72	—	92
その他土石	—	34	—	34	—	34	—	34	—	34
(普)熱間鋼材	—	20	—	28	—	28	—	29	—	27
(特)熱間鋼材	—	1	—	1	—	1	—	1	—	1
(普)鋼管	—	75	—	75	—	76	—	76	—	76

品目名	30		33		35		36		37	
	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)	設備向(A)	建設向(B)
(特)鋼 管	—	20	—	24	—	24	—	24	—	24
冷 鋼 材	—	25	—	28	—	28	—	28	—	28
× ッ キ 鋼 材	—	15	—	15	—	15	—	15	—	15
鑄 鋼	—	—	—	—	—	5	—	5	—	5
鑄 鉄 管	—	90	—	94	—	94	—	94	—	94
鉄 構 物	—	88	—	84	—	84	—	84	—	84
建設用金属品	—	62	—	74	—	74	—	74	—	74
その他の金属品	—	20	—	20	—	21	—	21	—	21
電 球 類	—	20	—	20	—	21	—	21	—	21
その他軽電機	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
電 線 ケーブル	—	62	—	60	—	60	—	60	—	60
時 計	—	13	—	16	—	16	—	16	—	16

(注) 31～32年の比率は、30年および33年の平均値あるいは傾向値をとり、34年は原則として35年に並げた。

付表 24 昭和35年の建築物構造別用途別の資材、労務投入額（購入者価格、建設省）（単位 千円）

部門名	構造用途	全 建 築 物			
福	わ	ら	198,304		
	その他の織物原料作物	317,612			
	特殊林産物	4,231,219			
伐	木（国産）	11,195,050			
沿	井	漁	業	1,665,425	
一	般	炭	515,472		
砂	利	石	砂	56,774,370	
棉	織	物	130,451		
麻	織	物	76,916		
ロ	ー	フ	漁	網	160,357
わ	う	加	工	品	3,382,852
い	製	品	2,783,748		
	その他の織雑糧品	2,932,309			
製	材	255,592,994			
合	板	19,107,100			
	その他の木製品	70,936,180			
洋	紙	541,266			
加	工	紙	2,400,134		
	その他の印刷、出版	6,497,623			
	その他のゴム製品	560,648			
カ	ー	バ	イ	ト	151,230

部門名	構造用途	全 建 築 物				
	その他のタール製品	14,449				
	その他の無機薬品	812,942				
高	圧	ガ	ス	1,378,447		
塗	料	12,982,373				
	その他の最終化学製品	111,035				
揮	発	油	3,606,420			
灯	油	41,555				
A	重	油	334,416			
	その他の石油製品	952,069				
コ	ー	ク	ス	683,718		
	その他の石炭乾留製品	491,938				
耐	火	レ	ソ	ン	ガ	1,722,961
	その他の建設用土石製品	12,634,714				
板	ガ	ラ	ス	14,760,726		
ガ	ラ	ス	製	品	301,494	
陶	磁	器	19,873,750			
セ	ク	ン	ト	62,405,319		
石	綿	製	品	371,846		
セ	ク	ン	ト	製	品	37,512,982
	その他の土石製品	2,826,711				
	普通鋼鉄間圧延鋼材	66,213,343				

部門名	構造用途	全 建 築 物											
普	通	鋼	鋼	管	34,974,101								
冷	向	仕	工	鋼	材	16,273,267							
鍍	金	鋼	材	20,133,230									
鑄	鉄	管	3,032,639										
伸	銅	品	1,075,722										
	その他の非鉄金属次製品	6,781,410											
鉄	構	物	16,494,911										
建	設	用	金	属	製	品	101,005,244						
道	具	類	347,757										
	その他の金属製品	14,572,288											
原	動	機	・	ボ	イ	ラ	ー	8,144,541					
特	殊	産	業	機	械	8,383,012							
	その他の機械	4,401,621											
産	業	機	械	修	理	4,590,397							
一	般	産	業	機	械	お	よ	び	装	置	19,363,880		
機	械	汎	用	部	品	6,771,590							
発	電	機	器	481,711									
送	配	電	機	器	11,272,235								
電	球	類	3,352,749										
	その他の軽電機器	2,377,137											
電	気	通	信	機	械	お	よ	び	測	定	機	器	1675,932

部門名	構造、用途	全 建 築 物
電 気 計 測 器		163,498
電 線		11,951,290
度量衡器計量器		319,125
秤 計		278,780
合成樹脂製品		5094,589
その他の製造業		3,211,093
建築補修		1,401,897
争務用電力		5937,603
和 市 が ス		1,283,618
上 水 道		2,178,401
損害保険		6,724,774
不動産賃貸料		2,680,393
道路貨物輸送業		6,012,716
倉 庫 業		1,003,249
電 信 電 話		6,585,294
郵 便		1,116,409
広 告		5852,288
その他の対事業サービス		2,941,310
争 務 用 品		5,607,358
分 類 不 明		48,614,568

部門名	構造、用途	全 建 築 物
旅 費		12,925,653
交 際 費		14,298,753
福利厚生費		3,634,656
勤 労 折 得		335,365,172
営 業 余 剰		88,606,005
資本減耗引当		10,189,290
間接税(内税を除く)		12,935,777
計		1,580,659,000

付表25 公共事業の資材、労務投入額

(昭和35年建設省)

工事種類 工事区分	公共事業総計	
	金額	構成比
I. 労務費小計	71,689,004	21.6
1 土 工	45,757,468	13.8
2 機械運転工	7,068,866	2.1
3 その他の技能工	17,758,962	5.3
4 雑 費	1,552,989	0.5
分類不明	△ 449,281	△ 0.1
II. 資材費小計	151,291,047	45.5
1. 林野生産物から加工品等	1,775,413	0.5
2 コンクリート用砂	2,013,377	2.1
3 コンクリート用砂利	14,733,065	4.4
4 砕 石	8,849,213	2.7
5 その他の砂、砂利	13,471,032	4.1
6 石 材	2,215,211	2.2
7 炭 材・丸 太	2,899,739	0.9
8 製材、合板木製品	2,164,536	0.7
9 火 災 類	2,632,186	0.8
10 化 学 製 品	2,290,139	0.7
11 石油燃料、潤滑油	7,182,263	2.2
12 アスファルト	6,293,889	1.9

工事種類 工事区分	公共事業総計	
	金額	構成比
13 セメント	27,302,576	8.2
14 セメント製品、窯業土製品	16,040,320	4.8
15 鉄鋼製品、鋼材、鍛造鋼	12,875,580	3.9
16 鋼管、鍛造管	2,231,131	0.7
17 冷間仕上げ鋼材、金鋼材	1,473,454	0.4
18 鉄 構 物	5,524,386	1.7
19 電線ケーブル、電線一次製品	361,604	0.1
20 建設用その他の金属製品	2,304,568	0.7
21 機械器具(掘削)道具類	1,080,309	0.3
22 電気、ガス、水道料	1,243,875	0.4
23 その他雑資材	3,261,822	1.0
分類不明	1,071,359	0.3
III 仮設損料小計	13,325,778	4.0
1 木材、木製品	2,654,684	2.9
2 鋼 製 品	1,598,066	0.5
3 電気設備その他	798,478	0.2
分類不明	1,274,550	0.4
IV. 準備工小計	9,143,107	2.8
1 労 務 費	2,199,006	0.7
2 資 材 費	1,411,525	0.4
3 運 搬 費	2,776,659	0.8

付表26 建設業総工事高に対する原材料費
比率の検討資料

工事種類 工事区分	公共事業総計	
	金額	構成比
Ⅳ 仮設損料	900.053	0.3
Ⅴ その他 分類不明	1,046,664	0.3
Ⅵ 管溝、損料等	3,548,356	1.1
Ⅶ 機械器具損料	35,978,736	10.8
Ⅷ 諸掛費	2,634,225	0.8
Ⅷ 諸経費	44,279,073	13.3
Ⅸ 分類不明	313,674	0.1
Ⅹ 工事費合計	332,203,000	100.0

1. 産業連関表で建設部門に投入した簡易コエ法対象原材料費の総工事高に対する比率は、次のとおりである。

昭和30年	昭和35年
58.0%	56.0%

2. 法人企業統計年報による原材料費の総工事高に対する比率は次のとおりである。

昭和30年	33年	35年	36年	37年
55.7	51.7	40.3	35.2	30.7

資料の肉眼で30～34年は棚卸資産使用高、35年以降は原材料費の売上高に対する比率である。従って、この比率は2つに分けて考え、傾向をみるにとどめた。

3. 外注部分は、原価構成の一部として工事高には入っているが、原材料費には入っていないので、外注を考慮して計算をしておすと、比率は次の如くなる。

(1) 外注比率を各年30% (35年の中小6社の実績) で計算した場合

昭和30年	33年	35年	36年	37年
72.6	73.8	57.5	50.3	43.8

(2) 大手5社の外注比率を35年以降に適用した場合(有価証券報告書が現在34年以降しか得られない)

	昭和30年	33年	35年	36年	37年
比率(%)	—	—	53.2	52.7	42.4
外注比率(%)	—	—	43	45	45

4. 毎月勤労統計の常備労働者の賃銀指数、労働力調査の雇傭指数および簡易コモ法による資材購入額指数から計算した資材費の総工事高に対する比率は次のとおりである。

昭和30年	33年	35年	36年	37年
52	53	55	53	50

計算式 例35年以降の場合

$$\text{資材費総工事高比率} = \frac{0.55a}{0.45 \times b + 0.55 \times a}$$

ただし、0.45、35年産業連関表の付加価値、その他費用の比率

0.55、35年産業連関表の資材費の比率

a、各年の資材費購入指数 35年=100

b、各年の賃金指数：雇用指数 35年=100

5. 上記3および4の資材費比率を単純に平均してみると次のようになる。

30年	33年	35年	36年	37年
66	62	55	52	46

ただし、30~34年と35年以降は資料の關係を厘正していない。

6. 以上の点を考慮して資材費の総工事高に対する比率を次のように考えた。

昭和30年	33年	35年	36年	37年
58	56	55	53	50

付表 27 取替資産の計算表

1. 九 電 力

(単位：100万円)

	30	31	32	33	34	35	36	37
総 額	7,523	11,535	10,137	11,679	14,432	18,832	21,492	17,967
構 築 物	8,695	10,523	9,001	10,393	12,726	17,067	19,471	15,666
機 械 装 置	827	1,012	1,136	1,286	1,707	1,764	2,022	2,300

注) 1. 営業報告書より、取替資産修繕費総額 {構築物(架空電線、送配電)、機械装置(需要者屋内装置修繕費)}をとった。

2. なお原計数は年度ベースであるので35年の産業連関表で用いた修正率(1/1.0383)を乗じている。

2. 国 鉄、私 鉄

(単位：100万円)

	30	31	32	33	34	35	36	37
国 鉄	14,444	14,556	14,807	16,324	18,108	19,639	22,523	(24,492)
私 鉄	5,311	5,771	6,429	6,289	6,891	7,526	8,508	9,630
(私鉄中国電)	2,157	2,776	2,213	2,018	2,239	2,318	2,503	

注) 1. 私鉄には、35年産業連関表の方式に基づいて国電を含む。

2. 国鉄の推計方法；鉄道統計年報(経理編)の「施設作業費」を次のように加工している。

建設補修(原簿の「外注保守」)を除去、残余を保守と取替とに分割する。

勤 労	(保)	5	:	(替)	5
一般管理		5	:		5
器 具		1	:		4
材 料		1	:		6
器具修理		1	:		4

なお、37年の経理簿がまだないので37年は次のような概算を行なった。

$$\left\{ (\text{全国鉄の37CT}) - (\text{同左中国電のCT}) \right\} \times \frac{\text{35国鉄取替資産}}{\text{35年統計国鉄CT}}$$

$$= (271,831 - 51,236) \times \frac{19,639}{337,008} = 24,492$$

3. 私鉄については、60余社の集計を行なうことが、資料、労力の点で殆んど困難であるため、35年の「対CT、取替資産比率」を固定し、30年以降のCTに乗じて概算を行なったためである。

付表 28. 農業土地改良費の算出表 (建設省)

(1) 農業土木 ; 一般会計及び特別会計より表20表のよ
うに直轄事業について抽出し、それに(2)表の地方公共
団体における耕地事業費及び開拓事業費を加え、更に農
地開墾機械公団(8,280)を加えた。

農林省一般会計	直轄	北海道開墾事業費	
土地改良事業費		開墾建設事業費	18,020
国営灌漑排水事業費	31,390	開墾計画費	
土地改良調査計画費	2,030	北海道開拓実施費	
干拓事業費		事務費のみ (旅費、調査費委託費)	140
干拓建設事業費	160	橋津地域泥炭地開墾事 業費	
干拓計画費	790	土地改良事業費	9,500
印磨治干拓事業委託費	1,180	開墾建設事業費	2,100
開墾事業費		根拠地区機械開墾建設 事業費	
開墾建設事業費	26,060	開墾建設事業費	1,670
開墾計画費	1,040	国土総合開墾事業調整費	1,160
開拓実施費 (事務費関係のみ)	270	離島振興事業費	1,430
機械開墾地区建設事業費		一般会計合計	125,786
開墾建設事業費	1,550	特定土地改良工事 特別会計	
酸性土壌調査旅費	-	土地改良事業費	116,210
酸性土壌調査費	-	土地改良事業工 事事務費	9,130
土地改良開拓事業等 附帯事務費	1,750		

農林省一般会計	直轄	北海道開墾事業費	
北海道土地改良事業費		国営干拓事業調整費	280
国営灌漑排水事業費	23,720	開拓者資金融通特別会計	43,830
土地改良調査計画費	690	特別会計合計	167,450

(2) 昭和35年度地方財政統計年報による目的別、性質別支出
内訳の産業経済費

(10万円)

	耕地事業費	開拓事業費	治山費	林道費	合計
人件費	510	1,070	190	240	2,010
物件費	5,560	5,590	160	430	11,740
普通建設事業費	272,550	39,830	73,740	58,860	444,980
補助事業費	244,240	37,510	72,590	50,640	404,980
単独事業費	33,310	2,320	1,150	8,210	44,990
受託事業費	55,750	10,690	1,870	510	68,820
失業対策事業費	80		1,920		2,000
小計	339,450	57,180	77,880	60,030	534,540
災害復旧事業費	205,530	3,810	8,460	21,640	239,440
補助事業費	183,560	3,810	7,550	19,820	214,740
単独事業費	21,970		910	1,820	24,700

(3) (1)および(2)の計 167,450 + 396,630 = 566,080

法人企業投資実績

(10万円)

	土地改良工事
全 産 業	454,720
農 林 漁 業 水 産 業	11,600
鉱 業	7,610
建 設 業	10,710
製 造 業	265,460
卸 売 小 売 業	39,620
金 融 保 険 業	6,280
不 動 産 業	1,590
運 輸 通 信 業	51,310
電 気 ガ ス 業	50,870
サ - ビ ス 業	9,610
鉱 業	} 83,990
電 気 ガ ス 業	
民 公 営 鉄 道	

付表 29 土地造成計算基礎(建設省)

1. 推計資料：35年度 法人企業投資実績統計調査報告

35年度 地方公営企業年鑑

35年度 日本住宅公団業務年報

2. 推計方法：民間建設部分を推計するのに、法人企業投資実績統計調査報告から、設備投資のうち、土地改良工事をとった。

同調査が資本金1,000万円以上の営利法人を対象としているため、全体に引きのぼす必要がある。

そこで資本金1,000万円以上の営利法人の投資実績に対して、資本金1億円以上の営利法人の投資実績額の占める割合と、全体の投資実績額に対して、この調査結果の投資実績額の占める割合とが同じであるとして推計した。

つまり

$$\frac{\text{資本金1億円以上の法人企業の投資実績額}}{\text{資本金1,000万円以上の法人企業の投資実績額}} = \frac{\text{資本金1,000万円以上の法人企業の投資実績額}}{\text{全体の投資実績額}}$$

上の式に、土地改良工事の投資額を代入して

$$\text{土地改良工事 } 514,530 \div \frac{454,720}{401,860} \times 454,720$$

次に、9-36表では推計を欠いている中央政府、地方公共団体及び公団分等を加える必要がある。

住宅公団分、22,200、地方公営企業の経済整備事業分166,090を加えると次のとおりである。

$$702,830 \text{ 10万円}$$

ただしこの中には土地購入費補償費も若干含まれている。